



年頭にあたりご挨拶

(一社) 岩手県測量設計業協会
会長 吉田 久夫

令和3年という新しい年を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、東京2020オリンピック、パラリンピックの年と期待しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延の影響から今年度へ先送りされました。全世界で8千万人を超える人々が感染していることを考えると、無事開催できるかと不安がよぎってしまう状況です。我国では新型コロナウイルスワクチン接種は今年早ければ3月頃からと言われておりますが、副反応の問題等で色々議論されているようですが、一日も早いワクチン接種による感染予防策が講じられることを祈るだけです。

さて、東日本大震災から10回目の新年を迎え、昨年で災害公営住宅がすべて完成し、復興道路も令和3年度中に全区間開通見通しとなりました。しかし、岩手の被災地では、平成28年台風10号、一昨年の台風19号による災害も乗り越えながら、復旧・復興の歩みを進めている状況です。

近年の気候変動の影響により激甚化・頻発化する気象災害や大規模地震、また、インフラ施設の老朽化から国民の生命・財産を守り、国家・社会の重要な機能を維持するため、国土強靱化の取り組みを加速化・深化するために、国土交通省は昨年12月11日に『防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策』を決定発表しました。

当協会としましては、発注者の良きパートナーとなれるよう、経営基盤の強化、安定的な経営とワーク・ライフ・バランスの実現に取組み、従業員の継続雇用を図り、担い手の確保・育成に全力で努めてまいります。

また、「i-Construction、建設ICT」への積極的な取り組み、品質確保、さらなる技術力向上に努め、受注者の責務を全うすべく尽力し、『地域の担い手・守り手』として、地域住民の安全・安心な暮らしの確保に向けて組織を挙げて取り組む所存です。我々県内企業は、この地で生まれ、地域の歴史と共に歩み、この地域を熟知し、人材を雇用し、この地の社会経済を支え、この地域を守って参りました。

『防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策』が示すインフラメンテナンスに係る業務は益々重要であり、若い技術者達が「誇りを持てる仕事」として積極的にチャレンジしてくれる業界に戻すためにも関係の皆様には今後とも一層のご指導ご支援をお願い申し上げます。